

第24回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和2年12月8日（火）に、第24回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、心理士など参加され合計32名の参加者となりました。

当院の緩和ケアセンター三好雅代看護師長より開会の挨拶があり、各施設より事例提示があった後、当院の緩和ケアセンター山縣裕史助教を司会として、シンポジウム形式で3名の先生を中心に討論を行いました。

事例：「終末期を夫・父親として在宅で過ごすことを望まれた咽頭がん患者の意思決定を支えた関り」

宇部協立病院 地域連携在宅医療科 立石 彰男先生
三隅 恵美先生
山口大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師
院内がん看護認定看護師
乗安 里佳先生

参加者の方々からは、「看護師として、また家族の立場として考えるいい機会になりました」「今後の支援を行う上で考えさせられることが多く、今日の検討会を必ず次に生かしたいと思った」「コロナ禍となり、今までとは違った在宅の現状を知ることができた。面会ができない状況で家族の思いについて、つらさ、情報提供の必要性を実感した」などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》



